



朝九小だより

朝霞市立朝霞第九小学校

令和 8年 2月 27日(金)

3月号 児童数412名

TEL:048-466-4481

<http://www.asakadai9shou.city-asaka.ed.jp>



【学校教育目標】「心豊かでたくましい人間の育成」
すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

【めざす学校像】「元氣な挨拶と明るい笑顔で輝きのある学校」

「自分の夢に向かって努力しよう！」

校長 小林美加



授業日数も残り少なくなり、6年生は卒業まであと16日です。先日の各学年の授業参観（発表会含む）・懇談会には多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。子供達の学習の様子や一生懸命に練習してきた成果、また、この一年間で成長した姿も見ていただくことができましたと思います。3月は和風月名で弥生（やよい）といわれ「草木がいよいよ生い茂る」という意味を持ち、春の訪れを象徴しています。弥生は、桜や菜の花が咲き始める時期であり、生命が芽吹き、自然が躍動する季節を表しているそうです。子供達も草木のように今まで蓄えてきた力をさらに発揮して、たくさんの楽しく素敵な思い出を胸に卒業式、修了式を迎えてほしいと願っています。

さて、2月22日までミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開催され、冬季競技のアスリートたちが熱戦を繰り広げ、世界中の人々に多くの感動を与えてくれました。そこで全校朝会では、オリンピックでの日本人選手の活躍を通して子供達にお話したいと思えます。スノーボード ハーフパイプの戸塚優斗選手は、前に大きなケガをして、長い間つらいリハビリをしていたそうです。なかなか結果を残すことができない中、3度目のオリンピックで見事金メダルを獲得しました。「夢の1つがかなった。平昌からずっと苦しんできて、つらい時期も多かったけど、それがやっと報われた。何回も辞めようと思ったけど、そのたびにいろいろな人に支えられてここまでやってこられた。」と語っていたそうです。どんなに苦しくても夢をあきらめない気持ちで努力を重ねることの大切さを教えてくれました。また、フィギュアスケートで銀メダルを獲得した鍵山優真選手は、「悔しさもあるけど、今の自分を出し切れたことに満足しています。」と結果だけではなく、過程を大切に示す姿勢を見せてくれました。今回6回目のオリンピックで引退を表明しているノルディック複合の渡部暁斗選手も、「道なき道を自分でかき分けてここまで来て、それがおもしろかったっていうのもある。道を究められたとは思ってなくて、道半ばで諦める感じだけど、すごくいい人生だったなと思っている。」と言っていたそうです。人生は、うまくいかない、結果につながらないことの方が多いかもかもしれませんが、子供達には「努力のプロセスを認めること」「やりきったと思える経験を重ねること」を大切にして前を向いて頑張っていてほしいと思います。どの選手も勝敗に関係なく最後には必ず、自分一人の力ではなく、仲間やサポートしてくれた全ての人に感謝の意を伝えていることが印象に残っています。

今の子供達は、たくさんの情報に囲まれ、選択肢も多い時代を生きています。そんな中で、自分の夢を見つけること、それに向かって努力することの大切さを、オリンピック選手達の生き方から感じ取ってもらえたらと思います。子供達がこれからの人生で、どんな困難にあっても自分を信じて前に進んでいくことができるよう、私達大人も一緒に支えていけたらと思います。引き続き、あたたかいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。